

## ■「第二期柏市子ども・子育て支援事業計画案」へのパブリックコメント実施結果

| 意見番号 | 意見   | 市の考え方   |
|------|--|---|
| 1    | 2歳児子育て中の母親、及び心理専門家として意見を申させていただきます。私は是非欲しいと思っているサービスがありまして、「託児つきカウンセリングサービス」です。近年、産後うつ病などもあり、親、特に母親の精神的ケアは健やかな子どもの成長の急務となっていると思われます。そのため、育児相談サービスが設置されていると考えられますが、実際、「目の前の子ども」の世話をしながら電話や窓口で相談してみると、その相談で十分な精神的ケアを受けることは、相談に集中することが難しいために限界があります。一方で、一時保育も組み合っているため、利用したい時に利用できる状況ではなく、また、カウンセリングサービスは基本自費で金銭的負担が大きいため、一人で精神的ケアを受けるサービスを利用することは、家庭で育児中の母親にはハードルが高いのが現状です。そのため、子どもを見てもらいつつ、カウンセリングサービスなどを低額で受けられる行政サービスがあると、多くの親がより子育てしやすくなるのではないかと思います、意見を申させていただきますました。 | 一時預かり事業については、ニーズに合わせ、その確保に努めてまいります。精神的ケアに関しては、乳児家庭全戸訪問事業や産後ケア事業等を中心とした支援を行っておりますが、きめ細かいニーズの把握に努め、必要な支援体制を整えてまいります。御指摘のカウンセリングサービスなどのきめ細かい対応について、子ども・子育て支援を進めるうえで、今後の参考にさせていただきます。               |
| 2    | ・柏市の総人口が令和7年をピークに減少するという見込みの背景がわからない。(P6)  | 平成30年4月に実施した「柏市の将来人口推計」を用いており、これはコーホートシェア延長法という推計手法により算出された超長期予測となっています。  |
| 3    | ・子育ての環境や支援への満足度は低い、という点は強く考えて頂きたい。保育園、医療費について、子どもの遊び場について、満足度が低い、ということがわかっただけでなく、そこをどうしていくかの対応は記載されないのですか？   | 子育ての環境や支援への満足度及びその理由については、具体的な評価と分析により得た課題を生かして本計画を策定しておりますが、御指摘のとおり結果を真摯に受け止め、今後の各施策の推進においても具体的対応に生かしてまいります。   |
| 4    | ・「母と子の集い」「離乳食教室」など赤ちゃんを持つ親へのサポート体制は手厚いがその後の歩けるようになった1～3歳の未就園児のお子さん達の居場所が無くて困っている人が多い。  | 施策1-（1）において、親子で交流できる場として地域子育て支援拠点の充実・整備を進めることとしており、御意見を踏まえながら計画を推進してまいります。  |
| 5    | ・ここ数年、保育園の待機児童だけではなく、こども園が増えた事で希望する幼稚園に入れない。プレ教室に行っていない幼稚園に入れない等、幼稚園でも潜在待機児童（名称は不明ですが）が多数います。働かずに子育てに専念したい方も働くことこども園の保育園枠に入れる事から仕事をしなくてはならない状態になっています。このねじれた状況の解消法も議論して頂きたい。   | 教育・保育についてはニーズ調査により把握した量の見込みを基に、確保方策を設定しています。各施設の定員ですが、私学助成の幼稚園の定員は、千葉県認可により、認定こども園の定員については、市が認可時に園と調整し、柏市子ども・子育て会議での利用定員の確認を経て決定しております。今後計画を推進する中で、実態を踏まえた必要な検討については議論を行い、計画の見直し等を含めて対応してまいります。 |
| 6    | ・「情報提供の充実」とありますが今のところ「はぐはぐ柏」で欲しい情報がワンストップでとれるという環境ではないと思っています。充実して欲しいです。   | 子育てサイト「はぐはぐ柏」については、令和2年度にリニューアルを予定しております。より利用しやすいサイトとなるよう、取組を進めてまいります。  |
| 7    | P24 「令和4年度の女性就職率80%時の1・2歳児の保育利用率についてですが、柏市の保育利用率は全国平均よりも低い傾向にあることから、ピーク時の保育利用率を45.3%程度と設定して保育需要を算出しました。」→保育利用率低く設定しすぎないですか。妥当なのでしょう。読んだ限りでは判断できませんでした。   | 保育利用率については、ニーズ調査により算出した量の見込みを基本として、柏市の状況を勘案して需要を設定しております。需要の算出は各施設の安定的運営にも関わることから、適切な算出が求められますので、今後のニーズの動向は逐次確認しながら、必要な場合には柔軟な対応を進めてまいります。  |
| 8    | P29 子育てサークルや地域団体等々の相互の有機的なつながりをつくっていくことが必要です→必要です。作っていてもいいのですが具体案がほしいです。お互いに何をしているのか、よくわかりません。   | 御意見の趣旨については施策2-(1)により取り組みを進めてまいります。具体的には、はぐはぐ子育て応援フォーラムの開催や情報誌作成等を通じたネットワーク事業を基本として進めてまいります。各団体の御意見を伺いながら、より有機的なつながり作りを検討してまいります。   |
| 9    | P30情報提供体制の充実→「どこに聞いたらいいか、わからない。」という方もよく聞きます。何でもここに聞いてくださいという機関の紹介+（こんな事がありますという事例）、を子育て支援課のサイトのどこかに作ってほしい。例、松戸のつながるプロジェクト( <a href="https://m-tsunagaru.com/">https://m-tsunagaru.com/</a> )   | 御意見の趣旨については施策1-(2)により取組を進めてまいります。現在、子育て支援アドバイザーの設置や妊娠子育て相談センターの整備、また関係機関の連携体制等により、ワンストップの情報提供・相談体制づくりを進めておりますが、子ども・子育て会議等でも同様の御意見を多数御意見をいただいているところであり、計画により、より充実した取組を推進してまいります。                 |

| 意見番号 | 意見   | 市の考え方   |
|------|--|---|
| 10   | P45 2人目出産、母が入院した時の子ども預け先は、子育て短期支援事業（宿泊を伴うもの）というものになりますか？その情報はどこでとればいいのですか？   | 宿泊を伴う保育を希望する場合は、子育て短期支援事業（ショートステイ）、夜間家族や親族に見てもらえる場合は、一時預かり事業を「かしわこそだてハンドブック」や子育てサイト「はぐはぐ柏」等により御案内しております。  |
| 11   | P48 児童相談所、子ども家庭総合支援拠点、要保護児童対策地域協議会一色々施設があってもどんな機能をしているかわかりにくい。どこに何を相談すればいいか。   | 広範多岐にわたる業務を分担するため、さまざまな施設・機関が機能しております。計画の趣旨に則り、どこに相談しても速やかに適切な機関へつなぐなどの連携体制の充実を図ってまいります。  |
| 12   | ・児童相談所は今検討段階で令和6年度以降にできるとのことなんでしょうか？   | 現在、開所年度も含めた検討を行っております。  |
| 13   | P54「柏市子どもの貧困対策推進計画」では、民生委員さんとの連携等も計画に入っているのでしょうか。「推進計画の実施」というのが抽象的すぎるような気がします。柏市に「子ども食堂」がたくさんあるのはとてもいい事だと思いますが、本当に支援を必要としている人に届いているのか、という疑問がありますので、支援を必要としている人についての情報もっている人と連携してほしいです。<br>基本理念通り「すべての子どもの幸せをともに守り育てるまち かしわ」であって下さい。よろしくをお願いします。                                      | 「柏市子どもの貧困対策推進計画」においては、民生委員と行政との具体的記述はありませんが地域の実情を認識されている民生委員をはじめ地域団体等の連携は重要なところであり、同計画の推進にあたっては、学校や保育所、保健分野などと併せて十分な連携がなされるよう御意見を踏まえて推進してまいります。また、本計画中の「柏市子どもの貧困対策推進計画」に基づいた取り組みについて、個別具体の計画により推進される施策については、改めて本計画で再掲することなく整理することとしております。<br>なお、こども食堂については、すべての子どもを対象に各団体の自発的な取り組みのもと運営されており、各団体の活動紹介などについて市が協力しているところです。 |
| 14   | (1) 施策の着実な実行<br>本計画(案)は、第一期の計画の理念を引き継ぎながら、子育てを取り巻く状況・制度の変化を踏まえて次の計画期間の理念を定め、それを基に子育て支援の方向を示し、課題解決のための施策とその道筋をまずまず網羅しており、大筋においてこの計画(案)を基に最終的にまとめられることに異存ありません。<br>計画策定後には、この計画をわかりやすく関係者をはじめ広く市民に示し、施策実施に当たっては、行政は当然のこととして、さらに関係者・市民・子育て当事者とのコラボを通じて、計画に盛り込まれた諸施策が着実に実行されることが肝要と存じます。 | 施策の推進にあたっては、第5章「計画の推進に当たって」に盛り込まれており、御意見も踏まえながら計画を推進してまいります。  |
| 15   | (2) 第一期計画の全体的な成果とのつながり<br>本計画(案)は、第一期計画の途中点検・見直しなどを経て、その延長線上にあるものと理解しています。大局的にみてどうところが第一期計画で実現されてきたかを簡明にまとめた記述があり、その上で状況変化、ニーズ調査等を踏まえてこの計画(案)に至っていると記述されていると、支援者など関係者及び市民の理解を得るのに分かり易いと思います。   | 御意見にあるとおり、第一期計画の推進においては柏市子ども・子育て会議により点検・評価を行い、第二期計画の検討の基礎としてまいりましたので、御意見の趣旨を踏まえ、記載内容の追記・修正を検討いたします。   |
| 16   | (3) 諸相談支援・窓口機関・支援者(組織)・子育て親子等の関係<br>本計画(案)の中で、妊娠子育て相談センター、子ども家庭総合支援拠点、(新設)児童相談所、ファミサポ、地域子育て支援拠点などの相談支援機関・窓口の整備・充実に触れられていますが、これらの機関・窓口と諸施設・支援者(組織)、子育て親子などの関係を俯瞰的に示す鳥瞰図があると、支援者など関係者及び市民の理解が容易になり、施策が効果的に実行されます。第二期計画のPR文書などにおいて是非とも鳥瞰図的なものを用意していただければ幸いです。                           | 多くの施設が設置される中、どこへ相談してよいか、役割などがわからないなどの御意見も多数あることから、御意見の趣旨を踏まえ、計画・概要版パンフレットへの掲載を検討いたします。  |
| 17   | 2. 個別項目について<br>(1) 1策定の背景 第4パラグラフ<br>パラグラフ前半部分の事柄が、「柏のまちづくりに不可欠である、、」との内容には異存ありませんが、その前に、第一義的に、「(例えば)柏の子どもの幸せ・家族の幸せのために」、求められているのだと思います。それが策定背景の大きな柱の一つなのではないでしょうか。  | 御指摘のとおり、また、基本理念に盛り込まれたとおり、「子どもの幸せ」は大前提とともいえるため、御意見の趣旨を踏まえて記載を検討いたします。   |

| 意見番号 | 意見  | 市の考え方  |
|------|---|--|
| 18   | (2) 施策1-(1) 子育て・親育ちの環境づくり 取り組みのポイント<br>昨今の柏市内を含む全国的な子ども食堂の展開からすると、「取り組みのポイント」に例示されている活動事例の中に、一つの居場所(支援者の増加でもある)として子ども食堂を明記してよいのではないかと思います。  | 御指摘のとおり、市内でも多くの子ども食堂が運営されていますので、御意見の趣旨を踏まえ、記載内容を修正してまいります。   |
| 19   | (3) 施策1-(2) 情報提供・相談体制<br>②利用者支援事業の充実、③相談体制の充実においては、特に、妊娠期からの切れ目のない相談支援が重要であることから、その中心的役割を担う妊娠子育て相談センターにおいて、他の諸々の支援者(組織)との連携のもとに、総合的、包括的な相談支援を推進していくことを、新項目を設けるかあるいは「取り組みのポイント」で明確に謳うべきだと思います。<br>妊娠期からの相談支援は、スタートの対応如何がそれ以降の子育てに大きく影響します。その点からも、本計画の実行段階においては、<br>・母子健康手帳交付時の子育て等に関する情報提供は、民間支援者とのコラボも含めて一層の工夫が重要だと思います。・さらに、プレママプレパパ教室についても、開催方法・内容など一層の工夫を凝らして充実させるべきだと思います。例えば、民間支援者とのコラボ、地域子育て支援拠点での開催、プレパパだけの教室、子育て中親子の一層の協力などが考えられます。<br>・プレママプレパパ教室などへの参加者には何らかのメリットを供与することも一案として考えられます(例えば、ファミサポ利用券)。 | 妊娠子育て相談センター及びはぐはぐひろばに設置している子育て支援アドバイザー、特に関心の高い入園に関するアドバイスをを行う保育アシストデスク・アシストコールの各利用者支援事業においては、それぞれが他の支援者との「地域連携」を行うとともに、利用者支援事業担当者の連携会議を設けて総合的・包括的な相談支援を推進しています。御意見につきましては、妊娠期からの切れ目のない支援体制を推進する上での参考にさせていただきます。<br>また現在、ママパパサロンにおいて子育て中の親子の御協力をいただき、育児体験者として交流を行っています。御意見については、関係事業の充実へ参考にさせていただきます。 |
| 20   | (4) 施策2-(2) 教育・保育の計画的整備・提供 ③<br>乳幼児時期の保育需要の増加傾向を受けて、今後学童保育需要の増加は必至と思われる。学童保育の量・質の確保は、本計画案にあるとおり喫緊の課題であり、確実な実行が望まれます。同時に、居心地がよく質の高い学童保育のためには、学童保育の体制、運営方法等の見直しも俎上に乗せるべき時期に来ていると思います。地域との交流・連携を模索することも課題の一つです。一方、学童に通わない子ども(通いたくても条件を満たさない子どもを含む)は相対的に少なくなるでしょうが、少なくなるからこそ、放課後の過ごし方への配慮が必要になります。学童に通わない子どもの放課後の過ごし方とそれへの対応を前もって検討しておく必要があるのではないのでしょうか。  | 御指摘のとおり、乳幼児期の保育需要の増加に伴い、こどもルームの入所児童も増加しております。このため、計画に基づき着実に保育室の整備を進めるとともに、子どもたちにとってのよりよい保育環境づくりに向け、様々な観点から運営の見直しや改善を進めてまいりたいと考えます。<br>学童に通わない子どもの放課後について、放課後子ども教室事業や児童センター運営事業等を進めるとともに、いただいた御意見を参考に、子どもの生活実態の把握に努めてまいります。   |
| 21   | (5) 施策3-(1) 児童虐待の防止<br>虐待の兆候あるいは発生には、見相、要対協、専門職の迅速的確な対応が要であることは当然ですが、同時に、「取り組みのポイント」3番目に記述のある虐待の予防対応が緊要です。それには、身近な地域における、子育て親子の地域とのつながりの広がり、多世代交流、子育てサロン・サークル等の居場所・地域子育て支援拠点等における見守り・寄り添いが、大きな役割を果たしていることに留意すべきで、その重要性を「取り組みのポイント」3番目あるいは4番目などで強調しておくべきであると思います。<br>また、本計画の実行上も、見相や子ども家庭総合支援拠点、さらには諸専門職のアドバイスを得ながら、こうしたいわゆる地域子育て力がさらに強化されていくことを期待します。   | 子育て親子の地域とのつながりが虐待の予防に大きな役割を果たすことは、重要なポイントと考えます。その趣旨を踏まえながら、心配や悩みをもつ親子を含め、すべての親子・子どもが地域とのつながりを持てるように、本計画では、施策1-(1)、1-(2)において「親子が社会へつながる一歩を踏み出せる環境づくり」により取り組みを進める考えです。<br>そうした意味でも地域の子育て支援活動のスキルアップは重要と考えられます。御意見につきましては、子ども・子育て支援を推進するうえで、今後の参考にさせていただきます。  |
| 22   | (6) 施策3-(4) 様々な環境にある子どもへの支援<br>ここでの支援は、家族支援(親子支援)が主眼となることから、例示にもありますが、表題あるいは「取り組みのポイント」において、親子あるいは家族への支援が要となることをより明確に示してはどうでしょうか。<br>多胎児親子もさまざまな環境にある親子の範疇に入るかと思いますが、同家族への配慮はどう考えるべきなのでしょう。   | 子ども・子育て支援には、これまで一定の取り組みが進んでいる課題もあれば、認識されて間もなくやまだ認識されていない課題もあります。「すべての子ども」のために、迅速かつ柔軟な対応の検討と実施が必要であり、必要な対応を順次進めていかななくてはならないと考えています。御意見については、子ども・子育て支援を推進するうえで、今後の参考にさせていただきます。  |

| 意見番号 | 意見  | 市の考え方  |
|------|---|--|
| 23   | <p>(7) その他</p> <p>ニーズ調査によれば、前回調査も今回調査でも、出産前に小さい子どもと触れ合ったことのない回答者が60%以上を占めています。</p> <p>出産の前に、若い人たちが子育てを身近に感じることが、子育て力、また地域の子育て力につながっていきます。プレママプレパパ教室での赤ちゃんとの触れ合いは勿論のこと、中学校における赤ちゃんとの触れ合い授業の全校への普及(子育て親子にとっても地域社会との接触の機会)、小中高大学生の幼稚園・保育園・地域子育て支援拠点等における職業体験あるいはボランティア体験を拡充することが望まれます。</p> <p>以上</p> | <p>初めて子育てを行う親に対しては、子育てに見通しを持って臨めるよう、妊娠中に行う柏市ママパパサロンや初めてお子さんを持つ2～5か月児の母親を対象として赤ちゃんとの生活について学ぶB Pプログラムなどを実施しています。計画の推進にあたり、これらの事業についての検証と充実に努めるとともに、御意見については、子ども・子育て支援を推進するうえで、今後の参考にさせていただきます。</p>   |
| 24   | <p>P28 ③子育てに対する意識啓発</p> <p>「様々な機会を通じて」の中に「母と子の集い」もふくまれていると思うが、先日そこに参加した親から「以前は体重、身長測定をしてもらったが測定がなくなってしまった」と聞いた。市の定期検診のみならず身近な場所で保健師、その他専門職の人と話す機会が無くなってしまっているのはもったいない。再開しさらに充実することを望みたい。</p>  | <p>月齢の小さいお子さんのいる家庭については、早期の地域担当保健師によるきめ細かい面談や訪問の充実を行うほか、市内4か所の妊娠子育て相談センターで保健師や助産師が常駐し、いつでも気軽に相談できる体制を整えています。「母と子のつどい」については、柏市民健康づくり推進員が中心となって行う地域活動と位置付け、地域の力が発揮される場として活動されています。御意見の趣旨については本計画により取り組みを進めると同時に、柏市母子保健計画に基づく取組・事業とも連携を図りながら、より一層の子育て支援を進めてまいります。</p> |
| 25   | <p>P30 ①情報提供体制の充実</p> <p>情報に対してアンテナの高い人、低い人の格差が大きいと感じる。</p> <p>市の啓発の尽力で「はぐはぐ柏」がかなり浸透してきたように感じるが、それもアンテナの高い人に限られている。情報を届けた人に届けるためにも「母子手帳」を交付する際にアドレス登録(情報を受け取る)を義務付けるくらいの方があっても良いのではないか。(その後に削除されてしまう可能性もあるが・・・)</p> <p>誰もが、『困ったときの「はぐはぐ柏」』と思ってもらえるようになると良い。</p>                                   | <p>子育て支援に係る情報提供は、対象者が常に入れ替わる状態であると同時に、多様な情報提供媒体が日々生まれている状況で、届きたい人に届いていない状況はこれまでも柏市子ども・子育て会議等より多数御指摘いただいているところです。御意見の趣旨については施策2-(1)により取り組みを進め、必要な方へ情報が届く方法を日々検討・進めてまいります。</p>   |
| 26   | <p>現在の若い世代は新聞をとっていない人が多いと聞く。今回のパブリックコメント募集も広報に掲載されていたが、広報そのものが届いていない。新聞折込ではなく個配(ポストin、地域新聞みたいに・・・)してもよいのではないか。以前兵庫県西宮市に住んでいた時は新聞への折込ではなく個配(郵便ポストにポストin)されていた。</p>   | <p>当該計画の内容に関する御意見ではありませんが、子ども・子育て会議でも委員より御指摘いただいた御意見でもあり、広報紙を所管する部署等とも連携し、今後のあるべき情報提供体制を検討してまいります。なお、広報かしわについては、新聞折込のほか、希望者への個配、ホームページでの閲覧も可能となっております。</p>   |
| 27   | <p>P30 ③相談体制の充実</p> <p>取り組みにも提示されているように、相談窓口を利用することは相当敷居が高いようだ。交流拠点などに遊びに行ったときに、その場でフレンドリーに相談できるように、保健師、カウンセラーなどのスキルのある人が常駐していると良い。程度は小さくても配偶者のパワハラ、モラハラなどもあると聞く。深刻になる前に助言してあげることが大切だと思う。</p>   | <p>御意見の趣旨については施策1-(2)により取り組みを進めてまいります。なお現在、市内に二か所整備しているはぐはぐひろばでは、遊びに行くついでに相談できるよう、子育て支援アドバイザーを常駐しているほか(利用者支援事業・基本型)、市内に4か所ある妊娠子育て相談センターにおいても、駅前や市役所など気軽に寄れる立地に保健師・助産師が常駐して、子育てに係る相談にあっております(利用者支援事業・母子保健型)。今後も研修や連携などによりスキルアップを図りながら、事業を推進してまいります。</p>             |
| 28   | <p>P44 ①一時的な預かりの充実</p> <p>昨年「はぐはぐポケット中央」が開設されたことはとても素晴らしいと思う。私立保育園などでもこのような取り組みをしていると聞くが最近、友人の保育士から「採算がとれないので一時預かりをやめた」と聞いた。環境も整い(保育室がある)、人材もいるのにやめざるを得ないのはもったいない。今後充実させるなら既存の場所、人をうまく使うことはできないものか。</p>   | <p>各保育園での一時預かりは、福祉の観点から地域の子育て支援の一環として、利用者に寄り添いながら受入れを進めてまいりましたが、待機児童・入園保留児の解消を進める中、残念ながら運営上の理由により一時預かり事業を休止する園が一部発生しています。御意見の趣旨については施策2-(4)により取り組みを進めてまいります。が、このような状況を鑑み、事業の課題の認識と評価・分析を続け、事業量の確保に努めてまいりたいと考えます。</p>   |

| 意見番号 | 意見  | 市の考え方  |
|------|---|--|
| 29   | <p>最後に、今回の「子ども・子育て支援事業計画」の影響を受ける対象者（子育て中の若い世代など）の意見を吸い上げるために、支援拠点などにあそびに来た親子さんに向けて「ワールドカフェ」っぽいことをしてみようというのも良かったかもしれません。</p> <p>小さい子どもが居たら、働いていたら・・・これだけの量の物を読み込むのは難しいと思う。実際、友人は途中で「心が折れて最後まで読めなかった」と・・・以上、よろしくをお願いします。</p>  | <p>計画への御意見をいただくにあたってはニーズ調査及び柏市子ども・子育て会議への諮問を行いました。より実態に即した御意見を伺う機会として、今後の計画の進捗・見直し、次期計画策定の際等に検討を行います。なお、計画の概要については今後、概要版として簡易なパンフレットを作成する予定です。行政だけでなく、市民と皆で取り組む計画として、今後の進捗へ寄与するものとして広く配布し、市民の皆様と共有してまいります。</p>           |
| 30   | <p>第2期柏市子ども・子育て支援事業計画について、たくさんの方の議論が交わされ、「全ての子どもの幸せをともに守り育てるまち かしわ」が実現されていくといいなと思いつきながら拝見いたしました。策定に関わっている皆さまに敬意を表したいと思えます。</p> <p>特に、基本理念のなかの「子どもの最善の利益」は社会全体の願いです。「『子どもの幸せとは何なのか』が基本」「柏のいかなる子どもも計画は見逃してはならない」といった意見、および「『子どもの幸せ』は、『親や家族の幸せ』につながることで、子どもの今の幸せだけでなく『未来に続く幸せ』を大人が保証すべきだ」ということには大変共感を感じています。全ての子どもが持続可能な社会の中で安全に、すこやかに、幸せに育つことを願います。</p> | <p>基本理念の趣旨に御賛同いただきありがとうございます。今後、この基本理念を目指して、この計画がまち全体で取り組んでいけるよう、計画の共有と共に取り組みを進めてまいります。</p>  |
| 31   | <p>2. 子育ての現状（P8～9）</p> <p>課題②「子育ての不安や負担」内、【図8】父親が子育てに関わりづらい理由（P9）について「どうやって子育てしていいかわからない、方法がわからない」が3番目に多い数字となっています。父親な母親と同じ役割を課すること（お世話等を母親と同等に行ういわゆる育メン的なこと）ばかりではなく、異なる役割を伝えることも大切だと考えます。父親（男性の保護者）との関わりは、子どもにとっても多様性を知る機会ともなります。父親、男性（母親ではない関わり）ならではの子どもとの関わり方や遊び方を父親（男性の保護者）に伝えることも重要で、積極的に取り組むべき事項と考えます。</p>                                      | <p>子育ての関わり方については、妊娠期のプレママ・パパ教室や地域子育て支援拠点などの利用等が学び合いの機会となると考えております。しかしながら、父親の子育てへの関わりについては、いまだ捉えきれない課題がたくさんあると認識しております。今後、男性の育休取得促進などの動きもあることから、御指摘の内容については市民の皆さんの御意見や協力をいただきながら、子ども・子育て支援の事業運営を進めていくための参考とさせていただきます。</p> |
| 32   | <p>施策1ー（1）子育て・親育ちの環境づくり</p> <p>地域子育て支援拠点について数値目標が出されています。数とともに質の向上も重要だと考えます。拠点事業とともに、身近な地域での官民間わな子育てサロンや広場等の開設や関係者への研修、啓発等の動きも計画に入っていると子育て支援の質の向上と裾野が広がる（地域全体での子育て支援）活動につながると思います。</p>  | <p>御意見の趣旨については施策1-(1)により取り組みを進めてまいります。ニーズ調査では、親子の居場所となるさまざまな施設・事業の利用の状況と満足度・不満に思っていることを調査しました。これらの調査結果なども共有・活用し、より質の高い事業運営を目指してまいります。</p>  |
| 33   | <p>施策1ー（2）情報提供・相談体制の充実</p> <p>■取り組みのポイント■の中3つ目のセンテンスで、「地域の関係者との連携や不足している社会資源の開発などの「地域連携」を行います。」とありますが、「不足している地域資源」とは何を指しているのだろうと疑問に思いました。</p>   | <p>利用者支援事業において、「地域連携」は利用者そのものを支援する業務と並ぶ重要な役割です。きめ細かく寄り添った支援を行う上で、地域にどのような子育て資源があるかを把握し、それらと連携・協働することで個別の利用者と社会資源がつながりやすくなるためです。事業を行う中で「柏市にはこんな人が多いのにそれを支援するサービスがない」などの気づきを行政や事業者、地域の方々に共有し、社会資源を創り出すことも期待されています。</p>     |

| 意見番号 | 意見  | 市の考え方  |
|------|---|--|
| 34   | <p>施策2-(2)教育保育の計画的な整備・提供<br/>           ③放課後児童(主に小学生)の居場所の確保<br/>           「放課後児童を対象とする各事業との連携により、小学校区ごとの状況に合わせた柔軟な対応を行い、児童の居場所の確保に努めます。」とあります。計画としては放課後児童健全育成事業(こどもルーム)の量の見込みが示され、施策2-(3)実現に向けて取り組むことの中で⑥こどもルームの保育環境の向上として、【教育・保育施設及び地域型保育事業の相互連携】が示されています。放課後児童健全育成事業(こどもルーム)の指導員に対する定期的な研修等による質の向上、スキルアップに関しても数値目標等を持って示してほしいと思いました。また、ハード面で子どもたちが安全に安心して過ごせることはもちろん、活動内容においても充実を望むところです。</p> <p>「放課後の子どもの居場所」とありますが、「保育する場所」と「居場所」は異なります。不登校児も多く、子どもの様々な体験不足を問題視されている昨今、大人の見守りの中で子どもたちが遊び等を通して豊かな実体験を重ねることは必須だと考えます。子どもの時代が、未来に続く幸せのために豊かに過ごせるよう、大人も真剣に考える時だと考えます。放課後児童の居場所や、長い目で見た子どもの育ち等について議論され、柏市としての考え方を表したり、行動計画において示されたりすると、真に理念と合致した内容になるのではないかと感じました。</p> | <p>放課後児童健全育成事業については、施策2-(3)により取り組みを進め、いただいた御意見は事業を運営する上での参考とさせていただきます。</p> <p>子どもの放課後については、放課後子ども教室事業や児童センター運営事業等を進めるとともに、いただいた御意見を参考に、子どもの生活実態の把握に努め、考え方をまとめてまいりたいと考えております。</p> |
| 35   | <p>最後に<br/>           近隣市では切れ目のない支援を実現するために、母子保健の管轄の「ママパパ教室」の一コマを、子育て支援拠点で実施しているという話を聞きました。子ども・子育て支援事業計画においては、多くの他市区町村で、教育、福祉、母子保健等が一環となり、「子ども」を一括りとした計画が策定されています。ぜひ、柏市も「子ども」を包括的にみて、全ての「子どもの最善の利益」や「未来に続く幸せ」を考えた議論をし、計画を策定してほしいと願います。そのことが、真に「子ども・子育てにやさしいまち」、「すべての子どもの幸せをともに守り育てるまち かしわ」になることではないかと思えます。</p> <p>以上</p>  | <p>妊娠期からの切れ目のない支援を実現する上で、部局を超えた連携は大変重要なポイントと考えております。本計画の策定はもとより、令和2年度策定予定の柏市第五次総合計画後期基本計画の策定においても施策形成するうえで、御指摘のとおり「子どもの最善の利益」を念頭におくこととし、部局を超えた連携により実現に向けて各施策を推進していきたいと考えます。</p>  |